

頭蓋底腫瘍センターにおける耳鼻咽喉科・頭頸部外科の役割

鼻副鼻腔および頭蓋底領域には、実に多彩な種類の腫瘍が発生することが知られています。耳鼻咽喉科では、鼻副鼻腔を起点とした経鼻内視鏡手術の専門性を活かし、あらゆる鼻副鼻腔頭蓋底腫瘍に対し、他科との連携を大切に、低侵襲かつ機能温存を重視した手術を担当しています。

例えば、下垂体腫瘍などの経鼻内視鏡頭蓋底手術では、脳神経外科と耳鼻科のチームで当該手術を行っており、耳鼻科医は、頭蓋底腫瘍摘出のために、鼻副鼻腔手術を行い、鼻腔機能を温存しつつ脳へのアクセスルートを作成しています。また、頭蓋底腫瘍摘出後に、鼻腔の粘膜を用いて、鼻腔と頭蓋内が交通している穴を閉じる再建も行っています。その他に、嗅神経芽細胞腫という稀な悪性腫瘍に対して、頭蓋内への進展度に応じて、脳外科と合同で、あるいは耳鼻科単独で経鼻内視鏡下に腫瘍摘出を行っています。

また、翼口蓋窩や側頭窩下へ進展した低悪性度唾液腺腫瘍や神経鞘腫などの頭蓋底腫瘍に対しては、従来は開頭手術や顔面切開を要することが多かった病変に対しても、経鼻的アプローチによる腫瘍切除を積極的に行っています。

鼻副鼻腔・頭蓋底の解剖を熟知した耳鼻咽喉科専門医が手術を担当することで、安全かつ精緻な操作が可能となり、整容面への影響を最小限に抑えながら、十分な腫瘍摘出を目指した治療を行っています。

嗅神経芽細胞腫に対する前頭蓋底手術

